

トルコギキョウの養液土耕栽培による高品質生産技術

農業総合研究所

要旨

トルコギキョウの季咲き出荷作型において、養液土耕栽培では、生育が旺盛になる5月を中心に、施肥量及び灌水量を多くすることで、慣行栽培より草丈が高く推移し、切り花長が長く、切り花重が重い、高品質な切り花が得られる。

成果の概要

- ① 季咲き出荷作型において、液肥による灌水同時施肥を基本とした養液土耕栽培と慣行栽培を比較した。養液土耕栽培では、液肥は3月中旬から5月下旬に濃度、量を変え施用した(表1)。灌水は3月中旬から7月中旬まで毎日、1日3回行った。定植直後及び6月以降は給水のみとした。慣行栽培では施肥は基肥中心で、灌水は株元の土壌表面が乾いた時に適宜行い、発蕾期以降の7月には行わなかった。総窒素施用量は両方とも約200mg/株となるように施肥した。
- ② 養液土耕栽培の灌水量は、慣行栽培より常に多くなった。草丈は、5月中旬以降に伸長が盛んになることが認められ、養液土耕栽培で慣行栽培より高く推移した(図1)。さらに、養液土耕栽培では、切り花長が長く、切り花重が重くなった(図2)。しかし、有効花数は両栽培方法の差は小さい傾向にあった。
- ③ トルコギキョウの季咲き出荷作型における養液土耕栽培では、生育が盛んになる5月を中心に施肥量及び灌水量多くすることで、高品質な切り花が得られる。

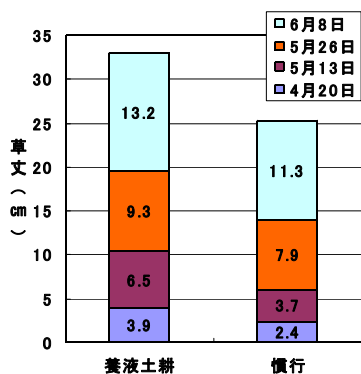


図1 栽培方法の違いによる草丈 (品種: あすかの舞姫)

表1 栽培方法の違いによる窒素施用量・灌水方法

処理区	施肥・灌水	2月	3月	4月	5月	6月	7月	計
養液土耕	窒素施用濃度(ppm)	0.0	16.0	32.0	32.0	0.0	0.0	-
	窒素施用量(mg/株)	0.0	20.3	65.4	125.2	0.0	0.0	210.9
	灌水量(ℓ/株)	0.04	1.27	2.04	2.88	2.34	0.81	9.38
	灌水日数(日/月)	1	18	30	31	30	20	130
慣行	窒素施用量(mg/株)	173.5	0.0	24.0	0.0	24.0	0.0	221.5
	灌水量(ℓ/株)	0.04	0.45	0.77	1.06	0.99	0.00	3.31
	灌水日数(日/月)	1	5	8	11	10	0	35

定植日: 2月23日

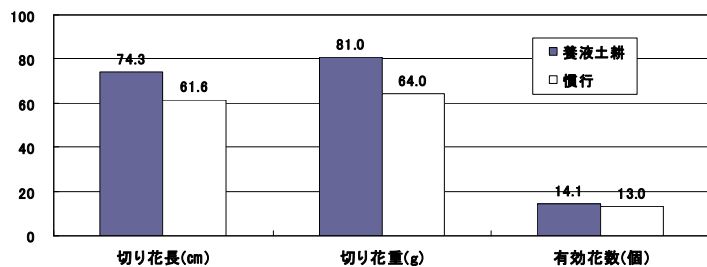


図2 栽培方法の違いによる切り花品質 (品種: あすかの舞姫)



栽培方法の違いによる切り花品質
左: 養液土耕、右: 慣行
(品種: あすかの舞姫)

(問合せ先: 0771-22-0429)